

# 千葉県地球温暖化対策実行計画

## 改定基礎調査結果（概要版）

【県民アンケート調査】

令和4年3月

## 県民アンケート調査（概要版）

---

### <目次>

（１）調査概要	３
（２）調査結果	５
（３）まとめ	２０

## (1) 調査概要

---

### I 目的

千葉県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に示された主体ごとの取組の実施状況を検証すると同時に、次期計画の施策の検討材料となる今後の取組に対する意向や課題、新型コロナウイルス感染症がライフスタイルに与えた影響等の把握を目的に、県民を対象としたアンケートを実施した。

### II 調査対象等

調査対象	・インターネット調査会社に登録された千葉県在住の18歳以上のモニター
調査内容	・属性について ・地球温暖化対策に対する意識 ・再生可能エネルギー・省エネルギーに関する設備設置の状況等 ・県の取組、県への意見など
調査期間	令和3年11月10日～13日（4日間）
調査方法	インターネット調査
調査結果	597件（県内11地域の人口比に沿った地域ごとの割付数以上の回答数を回収）

### Ⅲ 調査項目

#### <①回答者の属性>

#### <②地球温暖化対策に対する意識について>

- 問1 あなたは、地球温暖化問題に関心がありますか。
- 問2 気温上昇を抑え、気候変動による影響を緩和していくため、2050年までに「脱炭素社会」の実現を目指すこととされています。あなたは、「脱炭素社会」という言葉、その意味について知っていましたか。
- 問3 近年、地球温暖化などの気候変動は、将来にわたって自然や人間生活に様々な影響を与えることが予測されています。あなたは、どのような影響が問題だと感じますか。
- 問4 気候変動は私たちの生活にも影響を与えています。その影響に対処することを「気候変動適応」といいます。あなたは、気候変動適応という言葉、その取組を知っていましたか。

#### <③再生可能エネルギー・省エネルギーに関する設備設置の状況等>

- 問5 あなたのご自宅の再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備等の設置・導入に関する状況について、それぞれ当てはまる項目を選んでください。集合住宅にお住まいの方は、共用部に設置されているものも含めて選んでください。
- 問6 あなたや同居するご家族の省エネルギーや環境に配慮した行動に関する状況について、それぞれ当てはまる項目を選んでください。
- 問7 あなたのご自宅でのLED照明の使用状況についてお答えください。集合住宅にお住まいの方は、専用部（あなたご自身の居住部）についてお答えください。
- 問8 あなたのご自宅にある10年以上買い換えていない家電製品等を選んでください。
- 問9 あなたや同居するご家族が家電製品を買い換える際に重視することを選択肢から選んでください。
- 問10 あなたや同居するご家族が宅配便の再配達を防ぐためにしていることを選んでください。
- 問11 あなたや同居するご家族の気候変動適応への取組に関する状況について、それぞれ当てはまる項目を1つずつ選んでください。

#### <④新型コロナウイルス感染症流行前と比べたライフスタイルの変化>

- 問12 新型コロナウイルス感染症が流行する前（2019年の夏頃）と現在（2021年の夏頃）を比べて、あなたや同居するご家族の生活の中で変化はありましたか。それぞれ当てはまる項目を1つ選んでください。
- 問13 新型コロナウイルス感染症が流行する前（2019年の夏頃）と現在（2021年の夏頃）を比べて、ご自宅の電気使用量に変化はありましたか。

#### <⑤県の取組、県への意見など>

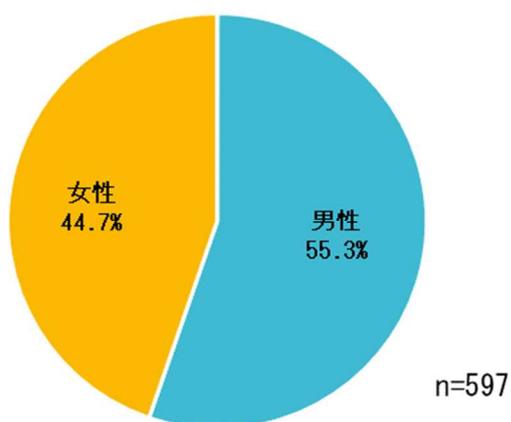
- 問14 県では千葉県地球温暖化対策実行計画に基づき、温室効果ガス排出削減目標を設定し取組を推進しています。あなたが知っている県の取組などを選んでください。
- 問15 県が実施する地球温暖化対策として、どのような取組を重点的に進めていくべきであると考えますか。

## (2) 調査結果

### ①回答者の属性

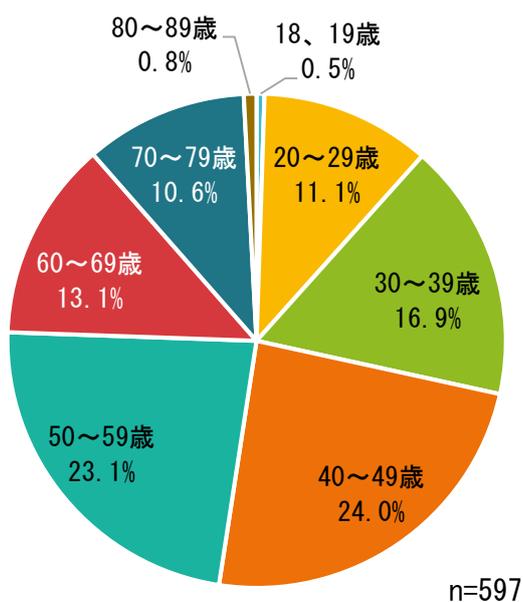
#### ■性別

・「女性」が44.7%、「男性」が55.3%で、男性の回答者がやや多い。



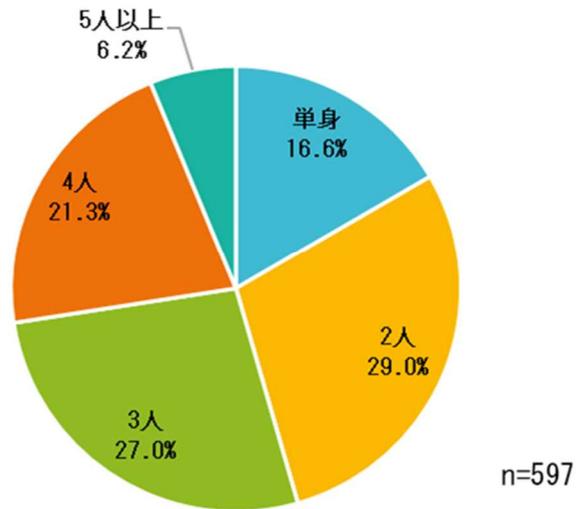
#### ■年齢層

・最も多い回答者の年齢層は「40～49歳」(24.0%)で、次いで「50～59歳」(23.1%)、「30～39歳」(16.9%)であった。



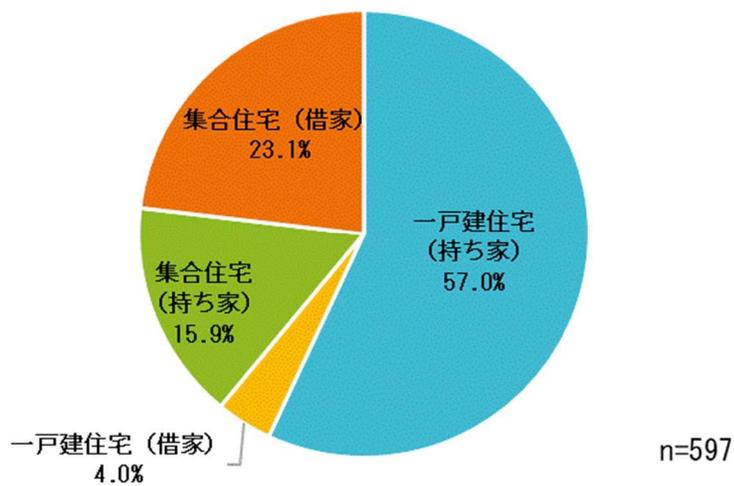
■同居している家族の人数（あなたを含めて）

- ・もっとも多い回答は「2人」（29.0%）で、次いで「3人」（27.0%）、「4人」（21.3%）となっている。



■住居形態

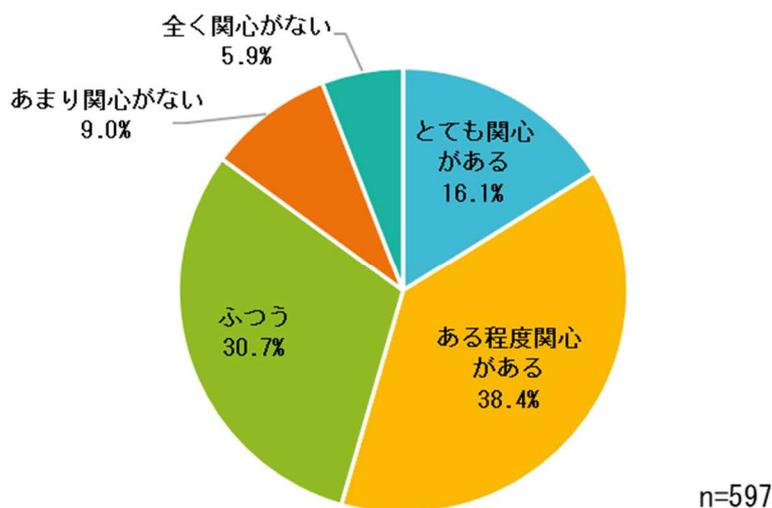
- ・「一戸建住宅（持ち家）」が最も多く、57.0%を占めている。
- ・次いで、「集合住宅（借家）」（23.1%）、「集合住宅（持ち家）」（15.9%）が多い。



## ②地球温暖化対策に対する意識について

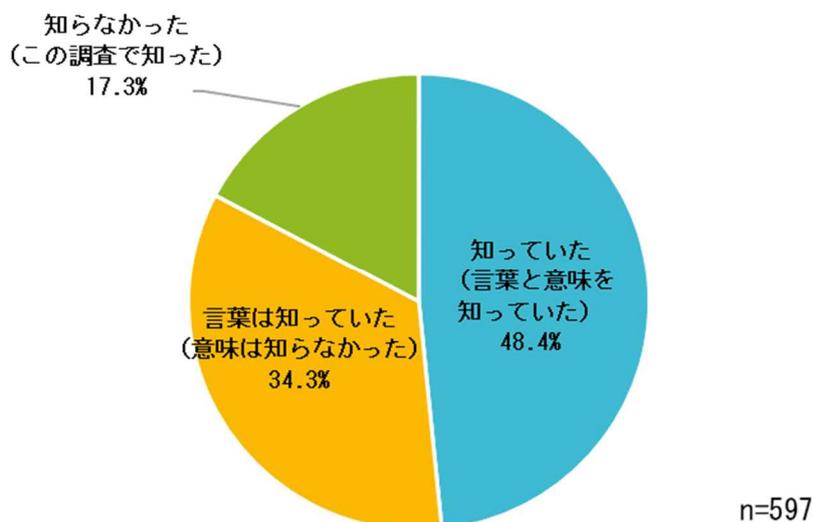
問1 あなたは、地球温暖化問題に関心がありますか。

- ・「ある程度関心がある」が最も多く 38.4%、次いで「ふつう」が 30.7%となっている。
- ・「とても関心がある」、「ある程度関心がある」を合わせると 54.5%となり、半数以上が関心を有している。
- ・年代別に見ると、20代、30代は、40代以上の年齢層より、関心があると答えた割合が低い。



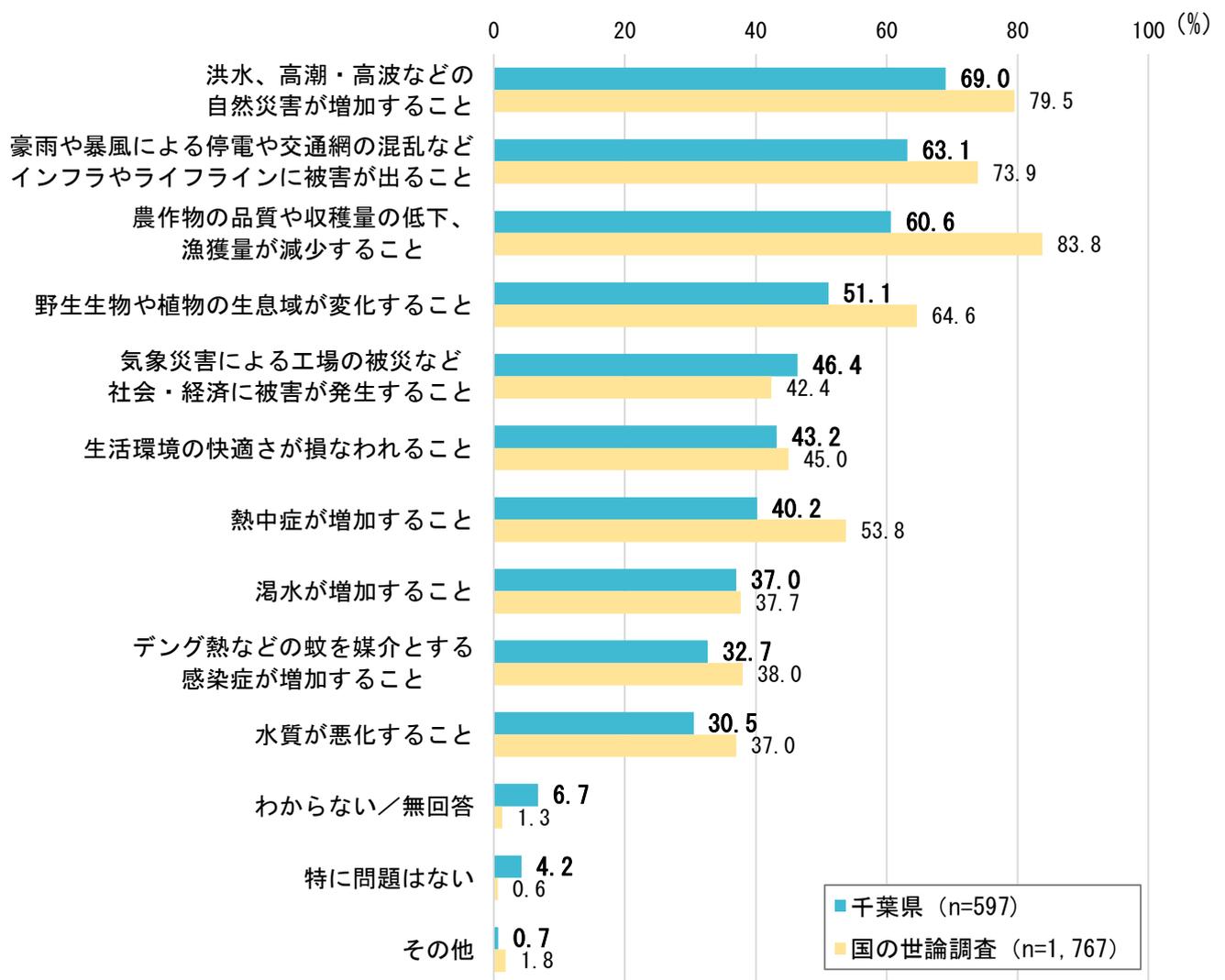
問2 気温上昇を抑え、気候変動による影響を緩和していくため、2050年までに「脱炭素社会」の実現を目指すこととされています。あなたは、「脱炭素社会」という言葉、その意味について知っていましたか。

- ・「知っていた」が最も多く 48.4%、次いで「言葉は知っていた」が 34.3%となっている。
- ・「知っていた」、「言葉は知っていた」を合わせる、82.7%が「脱炭素社会」という言葉を認知していた。



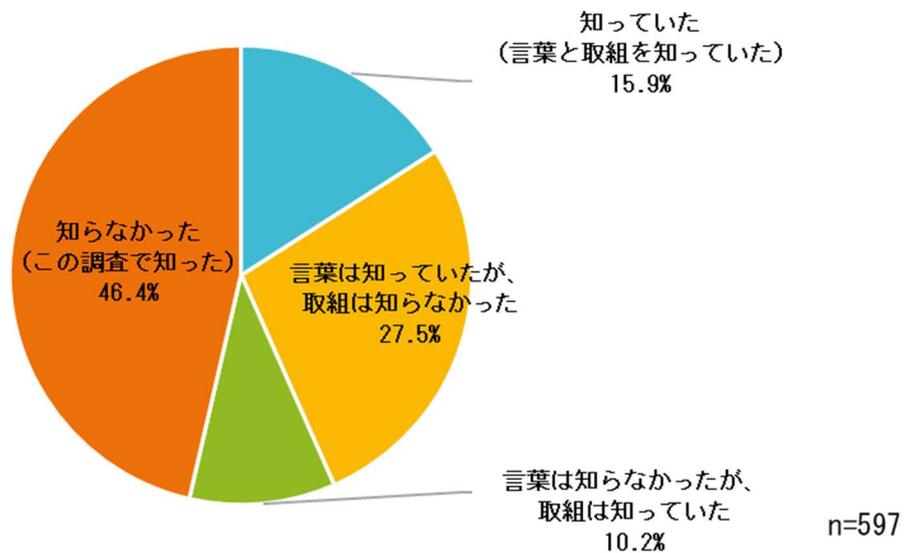
問3 近年、地球温暖化などの気候変動は、将来にわたって自然や人間生活に様々な影響を与えることが予測されています。あなたは、どのような影響が問題だと感じますか。(複数回答)

- ・「洪水、高潮・高波などの自然災害が増加すること」が最も多く69.0%、次いで「豪雨や暴風による停電や交通網の混乱などインフラやライフラインに被害が出ること」が63.1%、「農作物の品質や収穫量の低下、漁獲量が減少すること」が60.6%となっている。
- ・内閣府が令和2年度に実施した「気候変動に関する世論調査」の結果と比較すると、「気象災害による工場の被災など社会・経済に被害が出ること」を問題だと感じる割合は、千葉県が全国より若干高いが、その他の項目は全て全国を下回っている。

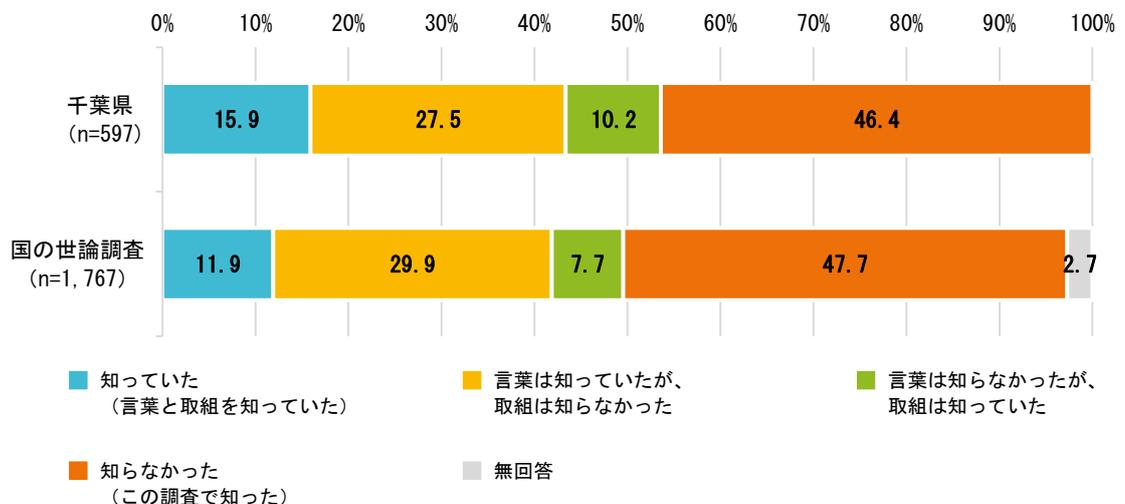


問4 気候変動は私たちの生活にも影響を与えています。その影響に対処することを「気候変動適応」といいます。あなたは、気候変動適応という言葉、その取組を知っていましたか。  
(単一回答)

- ・「知らなかった」が最も多く 46.4%で、次いで「言葉は知っていたが、取組は知らなかった」が 27.5%となっている。
- ・「知っていた」、「言葉は知っていたが、取組は知らなかった」、「言葉は知らないが、取組は知っていた」を合わせた割合は約5割となり、半数が気候変動適応について何らかの認知をしていた。
- ・内閣府による「気候変動に関する世論調査」(令和2年度)と比較すると、今回調査結果では「知っていた」の割合が世論調査より4ポイント高かった。



【参考】「気候変動に関する世論調査」(令和2年度)との比較



### ③再生可能エネルギー・省エネルギーに関する設備設置の状況等

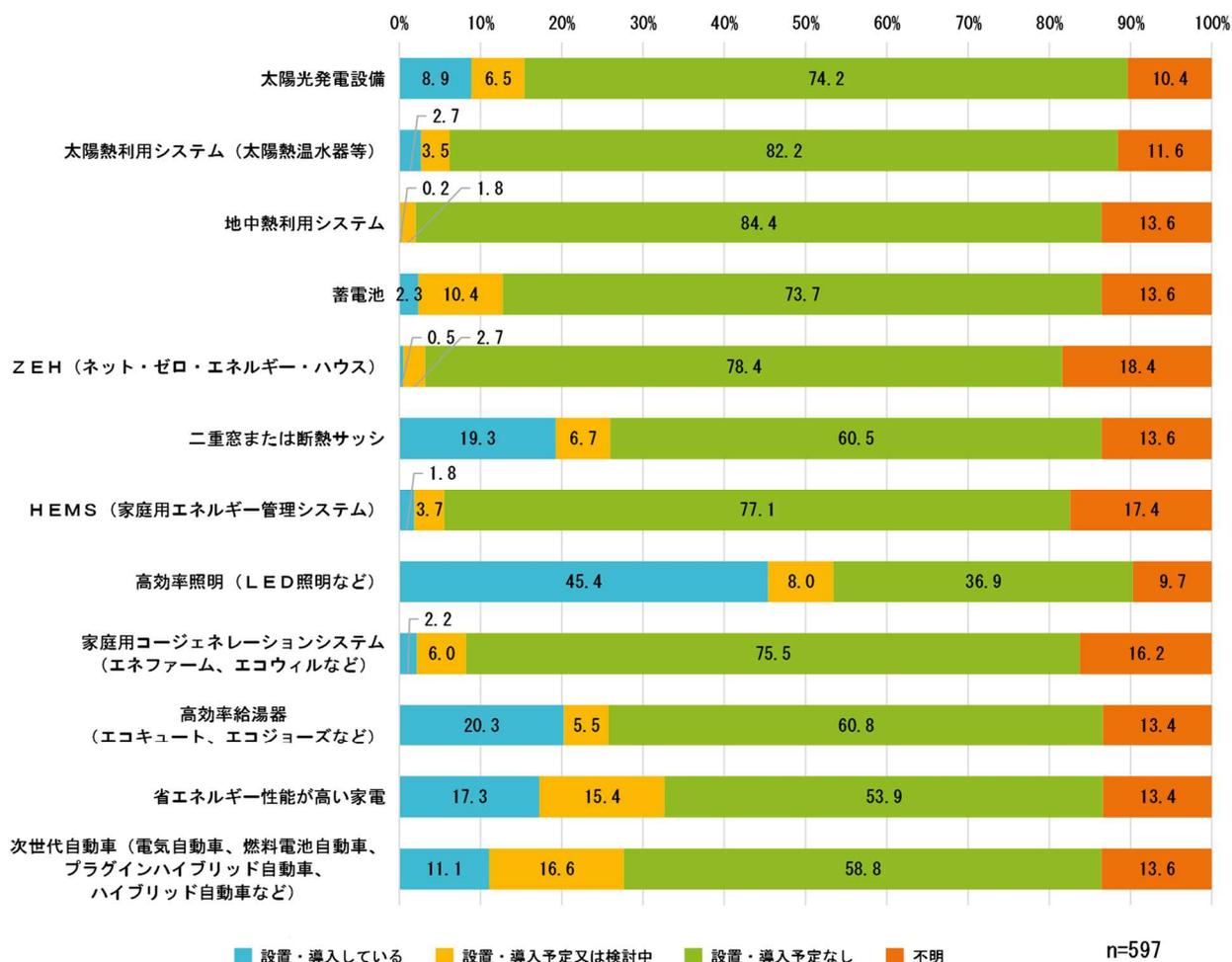
問5 あなたの自宅の再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備等の設置・導入に関する状況について、それぞれ当てはまる項目を選んでください。集合住宅にお住まいの方は、共用部に設置されているものも含めて選んでください。

- ・高効率照明（LED照明など）を除き、「設置・導入予定なし」の回答が最も多い。
- ・「設置・導入している」が多い設備は、高効率照明（LED照明など）（45.4%）、「高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）」（20.3%）、二重窓または断熱サッシ（19.3%）である。
- ・「設置・導入予定又は検討中」の割合が高い設備は、「次世代自動車」（16.6%）、「省エネルギー性能が高い家電」（15.4%）、「蓄電池」（10.4%）である。
- ・平成26年度に実施された同種のアンケート調査（以下「前回調査」という。）と比較すると、全般的に設置・導入されている割合は向上している。
- ・住居形態別に見ると、全体的な傾向として借家に比べて持ち家の方が、設備の設置・導入されている割合が高い。また、持ち家において、設置・導入が進んでいる設備は、以下のとおりであった。

<設置・導入が進んでいる設備（20%を超えるもの）>

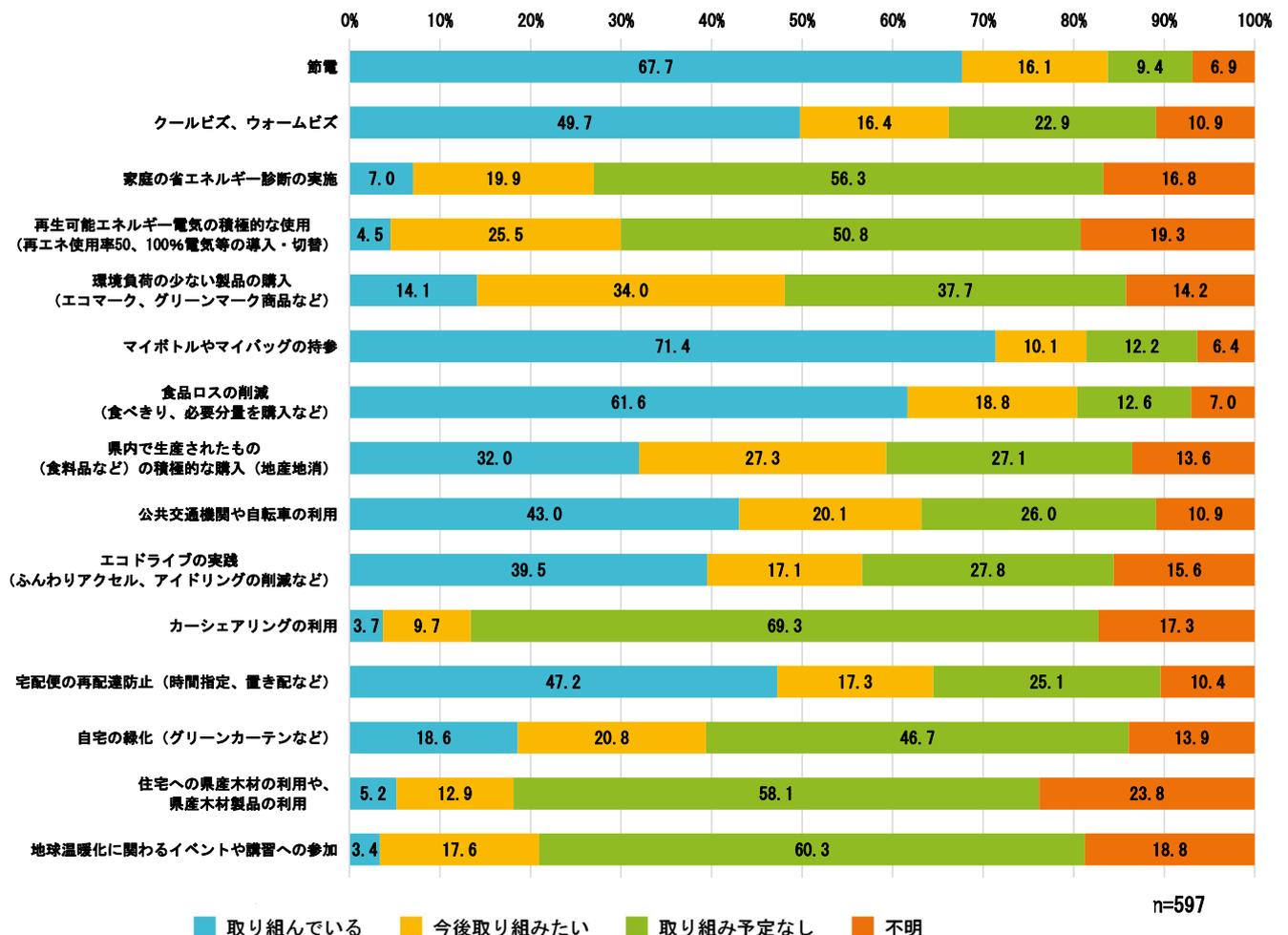
戸建住宅（持ち家）：高効率照明、高効率給湯器、二重窓または断熱サッシ

集合住宅（持ち家）：高効率照明、二重窓または断熱サッシ



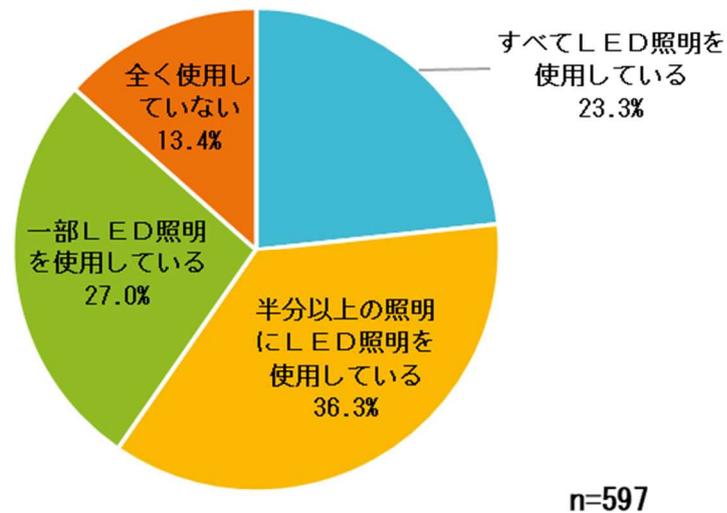
問6 あなたや同居するご家族の省エネルギーや環境に配慮した行動に関する状況について、それぞれ当てはまる項目を選んでください。

- ・省エネルギーや環境に配慮した行動のうち、「マイボトルやマイバックの持参」が最も多く71.4%、次いで「節電」が67.7%、「食品ロスの削減」が61.6%となっている。
- ・住居形態別で見ると、省エネルギーや環境に配慮した行動については、多くが特段の設備を必要としない取組であることから、際立った差は生じていないが、「公共交通機関や自転車の利用」、「宅配便の再配達防止」については、集合住宅（持ち家、借家）の方が戸建て住宅（持ち家、借家）より実施率が高い。「公共交通機関や自転車の利用」については、集合住宅は公共交通機関の発達した市街地に立地するものが多いこと、「宅配便の再配達防止」については宅配ボックス等の設備が予め備わっていることが背景にあると考えられる。
- ・国の地球温暖化対策計画（令和3年10月閣議決定）における対策・施策の根拠に2030年度の実施率が示されている行動（クールビズ・ウォームビズ、家庭の省エネルギー診断（家庭エコ診断）、エコドライブ、カーシェアリング）について、今回の調査結果と国が見込む実施率を比較すると、家庭の省エネルギー診断とカーシェアリングは国の見込みを既に上回っているが、クールビズ・ウォームビズ、エコドライブについては、国の見込みの5～6割の水準にとどまっており、取組の促進が必要であると考えられる。



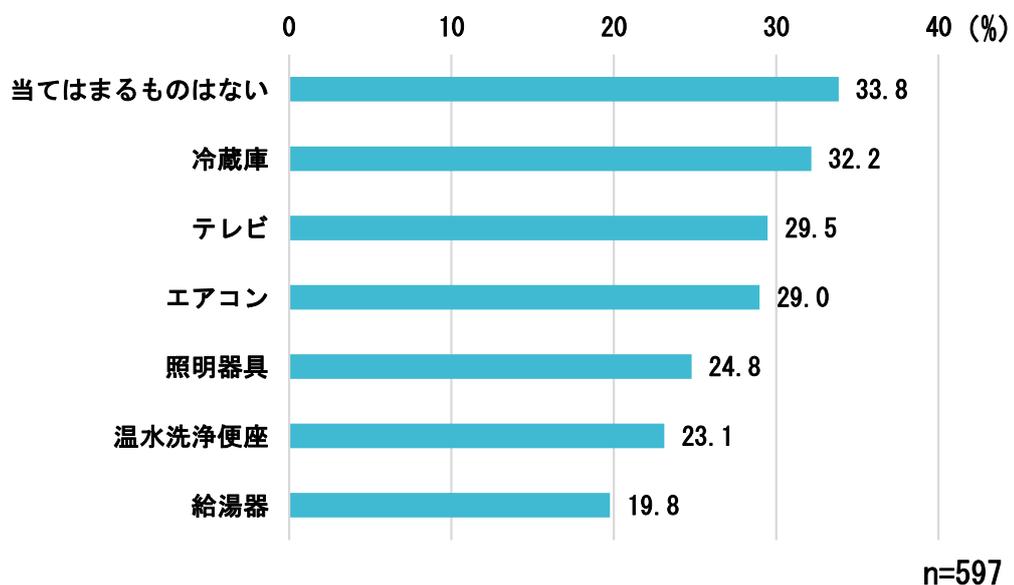
問7 あなたのご自宅でのLED照明の使用状況についてお答えください。集合住宅にお住まいの方は、専用部（あなたご自身の居住部）についてお答えください。

- ・「半分以上の照明にLED照明を使用している」が最も多く36.3%、次いで「すべてLED照明を使用している」が23.3%となっている。
- ・前回調査と比較して、「一部LED照明を使用している」、「全く使用していない」は減っており、「すべてLED照明を使用している」は4倍以上に増えている。LED照明の価格が低下したこと、従来の照明に比べて長持ちすることが周知されつつあることなどを背景に、普及が進んでいると考えられる。



問8 あなたのご自宅にある10年以上買い換えていない家電製品等を選んでください。

- ・「当てはまるものはない」が最も多く33.8%、次いで「冷蔵庫」が32.2%、「テレビ」が29.5%となっている。



問9 あなたや同居するご家族が家電製品を買い換える際に重視することを選択肢から選んでください。

- ・ 1番重視することとして、「価格」が最も多く40.7%、次いで「性能」が22.1%、「使いやすさ」が13.6%となっている。
- ・ 2番目に重視することとして、「価格」が最も多く22.9%、次いで「使いやすさ」が19.8%、「省エネルギー性能」が18.8%となっている。
- ・ 3番目に重視することとして、「使いやすさ」が最も多く21.8%、次いで「性能」が17.6%、「省エネルギー性能」が17.3%となっている。
- ・ 4番目に重視することとして、「使いやすさ」が最も多く16.9%、次いで「メーカー」が16.6%、「省エネルギー性能」が15.9%となっている。
- ・ 5番目に重視することとして、「デザイン」が最も多く19.4%、次いで「メーカー」が15.7%、「省エネルギー性能」が15.2%となっている。
- ・ 重視度は、価格が最も高く、次いで性能（省エネルギー性能以外）と使いやすさが同程度、省エネルギー性能、メーカーの順となっている。
- ・ 問8の結果も踏まえると、買替時において、「省エネルギー性能の高い家電製品は、インシヤルコストが高くても、ランニングコストが低い」といった、費用面（価格）の情報があるとよいと考えられる。



n=597

### ■重視度

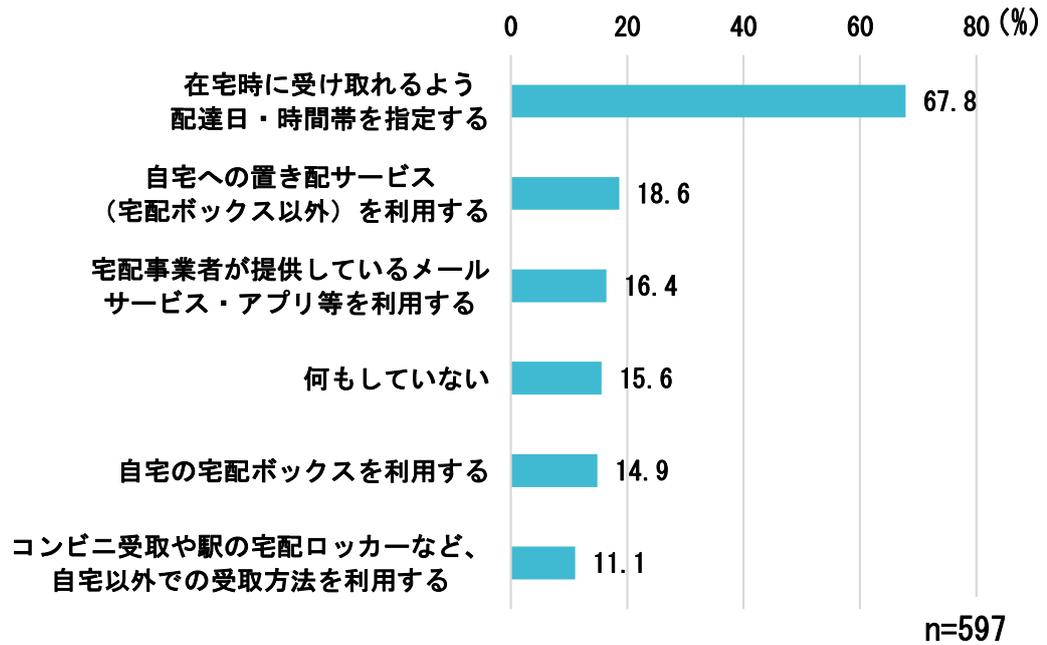
順位	項目	スコア
1	価格	2,143 pt
2	性能 (省エネルギー性能以外)	1,618 pt
3	使いやすさ	1,543 pt
4	省エネルギー性能	1,318 pt
5	メーカー	886 pt
6	デザイン	697 pt
7	環境にやさしいこと	461 pt
8	発売開始時期	287 pt

※重視度は、項目ごとの回答者数に以下のポイントを乗じた値を合計して算出した。

- 1番目に重視することを選んだ回答者数×5pt
- 2番目に重視することを選んだ回答者数×4pt
- 3番目に重視することを選んだ回答者数×3pt
- 4番目に重視することを選んだ回答者数×2pt
- 5番目に重視することを選んだ回答者数×1pt

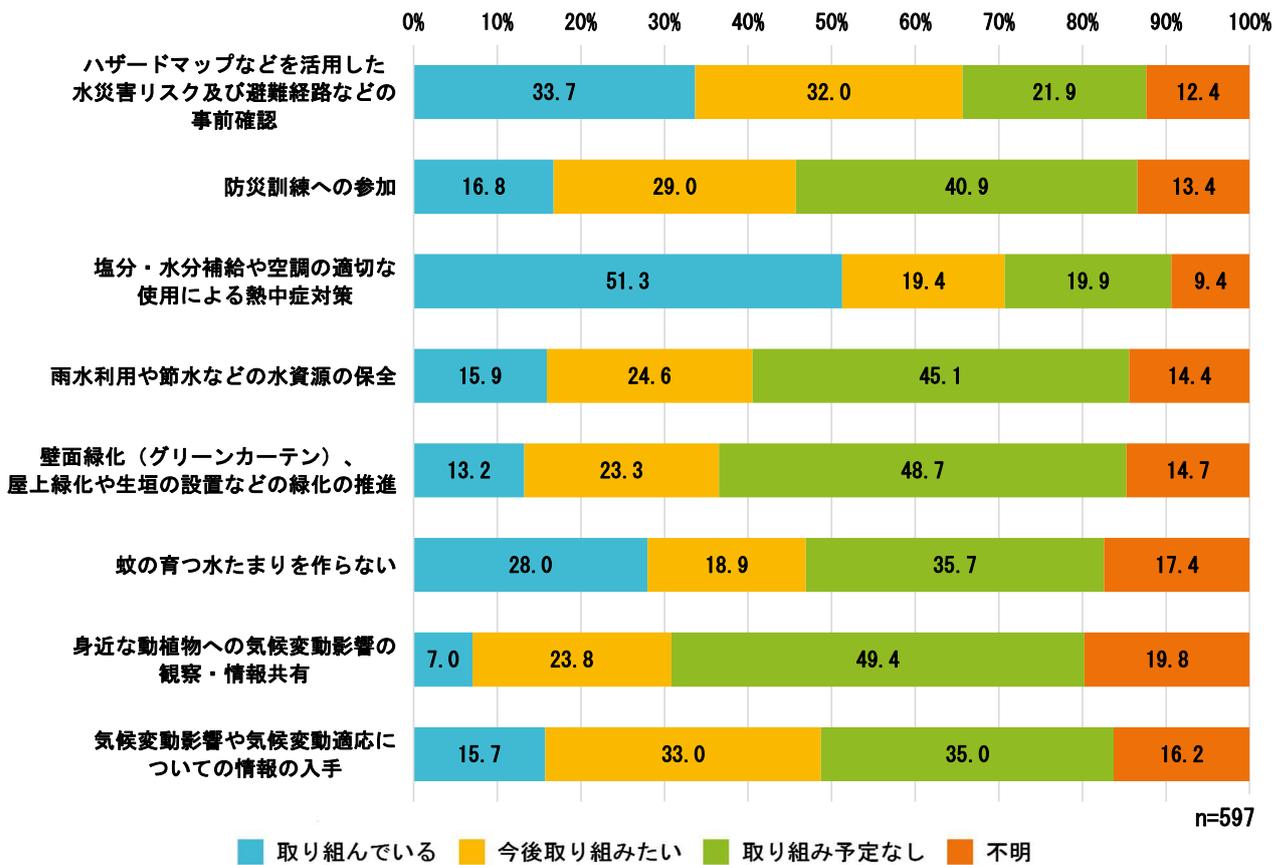
問 10 あなたや同居するご家族が宅配便の再配達を防ぐためにしていることを選んでください。(当てはまるものすべて)

- ・「在宅時に受け取れるよう配達日・時間帯を指定する」が最も多く 67.8%、次いで「自宅への置き配サービス」が 18.6%となっているが、以下ほぼ同程度であった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止策として、外出自粛や在宅勤務する人が増加したことや、対面を避けた荷物の受取方法の選択等により、再配達を防ぐ多様な受取方法が実施されつつあると考えられる。



問 11 あなたや同居するご家族の気候変動適応への取組に関する状況について、それぞれ当てはまる項目を1つずつ選んでください。

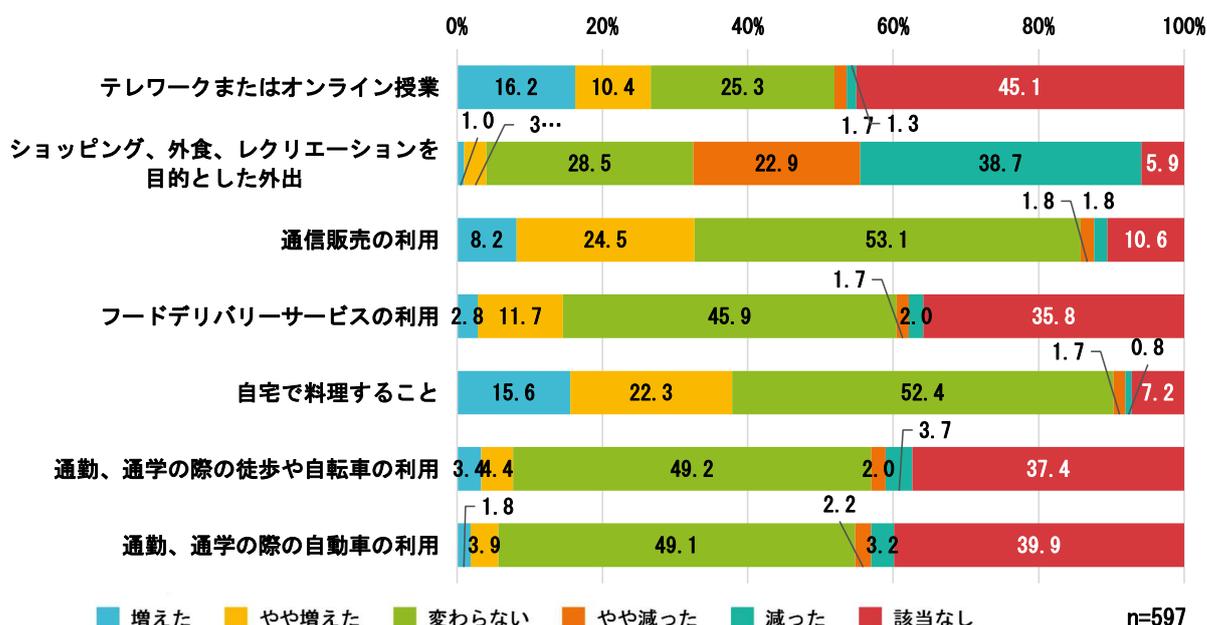
- ・すでに取り組まれている取組については、「塩分・水分補給や空調の適切な使用による熱中症対策」が最も多く 51.3%、次いで「ハザードマップなどを活用した水災害リスク及び避難経路などの事前確認」が 33.7%となっている。
- ・今後取り組みたい取組については、「気候変動影響や気候変動適応についての情報の入手」が最も多く 33.0%、次いで「ハザードマップなどを活用した水災害リスク及び避難経路などの事前確認」が 32.0%となっている。



#### ④新型コロナウイルス感染症流行前と比べたライフスタイルの変化

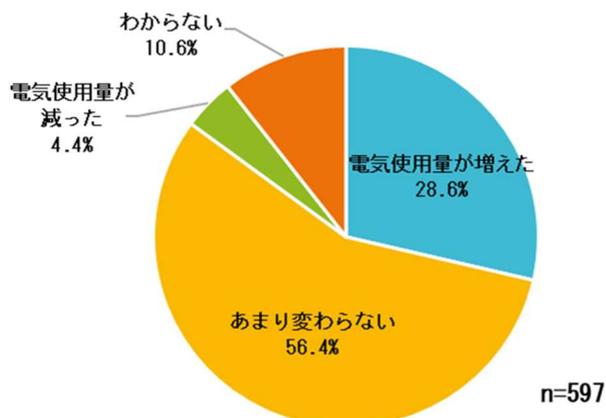
問 12 新型コロナウイルス感染症が流行する前（2019年の夏頃）と現在（2021年の夏頃）を比べて、あなたや同居するご家族の生活の中で変化はありましたか。それぞれ当てはまる項目を1つ選んでください。

- ・「増えた」、「やや増えた」の合計が多い項目は、「自宅で料理すること」、「通信販売の利用」、「テレワークまたはオンライン授業」であった。
- ・「減った」、「やや減った」の合計が多い項目は、「ショッピング、外食、レクリエーションを目的とした外出」である。
- ・これらの結果から、県民の在宅時間が増えているとみられる。



問 13 新型コロナウイルス感染症が流行する前（2019年の夏頃）と現在（2021年の夏頃）を比べて、ご自宅の電気使用量に変化はありましたか。

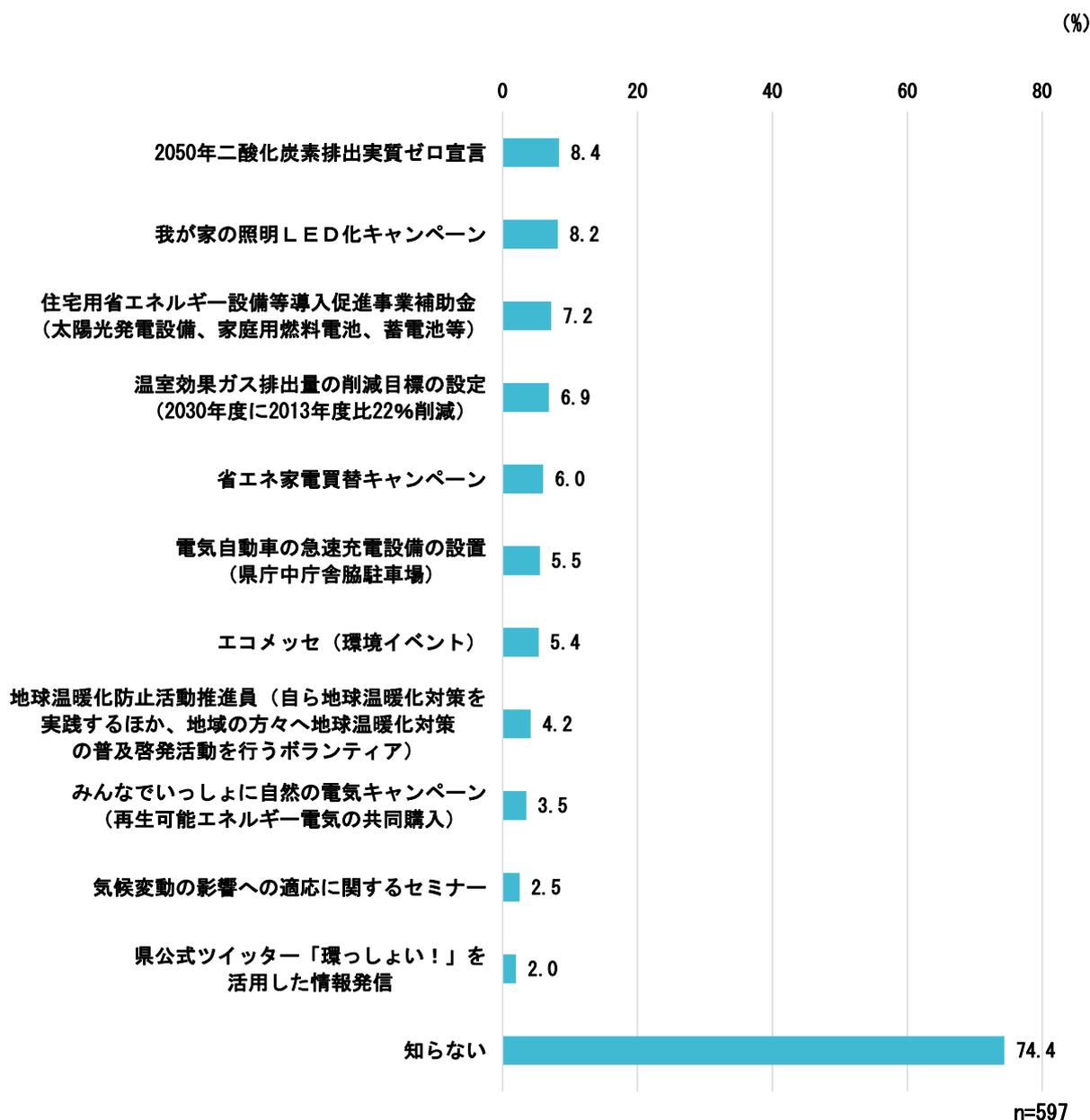
- ・問 12 の結果から、在宅時間が増えている可能性が示唆されたものの、電気使用量は「あまり変わらない」と回答した割合が高く（56.4%）、「増えた」と認識している回答者は28.6%である。ただし、「減った」と認識しているのは4.4%にとどまっている。



### ⑤ 県の取組、県への意見など

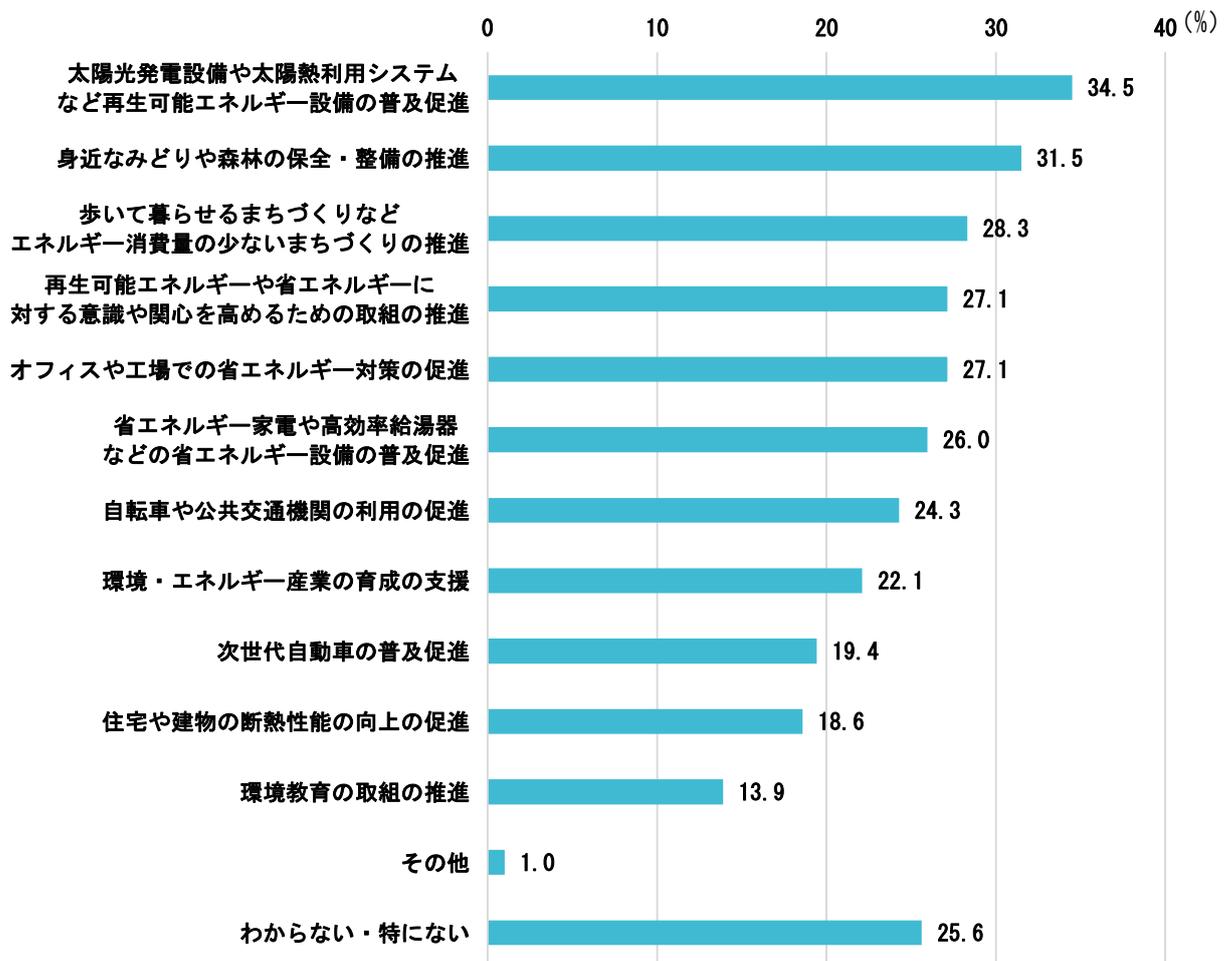
問 14 県では千葉県地球温暖化対策実行計画に基づき、温室効果ガス排出削減目標を設定し取組を推進しています。あなたが知っている県の取組などを選んでください。(あてはまるものすべて)

- ・「知らない」が最も多く 74.4%である。
- ・認知されている取組は、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」が8.4%、「我が家の照明LED化キャンペーン」が8.2%、「住宅用省エネルギー設備等導入促進事業補助金」が7.2%の順で多いが、いずれの項目も10%に達していない。



問 15 県が実施する地球温暖化対策として、どのような取組を重点的に進めていくべきで  
あると考えますか。(5 つまで選択)

- ・「太陽光発電設備や太陽熱利用システムなど再生可能エネルギー設備の普及促進」が最も多く 34.5%、次いで「身近なみどりや森林の保全・整備の推進」が 31.5%、「歩いて暮らせるまちづくりなどエネルギー消費量の少ないまちづくりの推進」が 28.3%となっている。
- ・温暖化問題への関心別に見ると、地球温暖化問題に「とても関心がある」「ある程度関心がある」と回答した層は、「再生可能エネルギーや省エネルギーに対する意識や関心を高めるための取組の推進」や「太陽光発電設備や太陽熱利用システムなど再生可能エネルギー設備の普及促進」を進めていくべきと回答した割合が高い。
- ・特に、「とても関心がある」と答えた層は、「身近なみどりや森林の保全・整備の推進」を選択した割合が、5割を超えていた。一方で、関心が低いと答えた層ほど、「わからない・特にない」の割合が高くなっている。
- ・年齢層別に見ると、「太陽光発電設備や太陽熱利用システムなど再生可能エネルギー設備の普及促進」、「身近なみどりや森林の保全・整備の推進」は、年齢層が高いほど選択した割合が高い。一方で、年齢層が低いほど「わからない・特にない」を選択した割合が高い。
- ・居住地別で大幅な差異は見られなかった。



n=597

問 16 地球温暖化対策、気候変動への適応に関して、千葉県へのご提案、ご意見がありましたら、ご記入ください。(自由回答)

- ・「普及啓発・情報提供等」に関するものが 22 件、「再生可能エネルギー等の活用」に関するものが 18 件であった。また、「その他」の意見は 24 件であった。

主な意見の分類	件数
普及啓発・情報提供等	22
再生可能エネルギー等の活用	18
自動車・自転車・公共交通	13
補助金・助成金	11
二酸化炭素の吸収源を増やす取組	9
省エネルギーの促進	7
気候変動への適応	7
県・市町村の取組の充実	7
脱炭素なライフスタイル	4
ごみの削減・3R等	4
再生可能エネルギー施設の適切な誘致等	3
温暖化対策に資するまちづくり	2
その他	24
合計	131

#### <主な御意見>

- ・温暖化などへの取り組みやキャンペーンを、みんなにたくさん伝わるような広報をしてほしい。これまでの活動だと、知る人ぞ知るみたいな感じだと思う。色々な情報も、役所のホームページだとわかりにくいのでわかりやすくしてほしい。
- ・気候変動に目を向けさせるような、地域の具体的な影響例等を活用した啓もう活動の推進による危機意識、自分事であるという意識の醸成。
- ・地球温暖化対策、気候変動への適応について、専門的でなく誰でも分かり易い言葉で啓もう活動を行ってほしい。
- ・小中高の学校の屋上で太陽光発電設備と蓄電池を標準的に配備して、普段は学校で使う電気代の一部を賄うと共に、災害時に避難所たる学校そのものや地域の非常電源として活用する取り組みを進められないか。
- ・環境にやさしい自動車や給湯器など高額なものが多いためなかなか実現しません。いろいろな補助金の制度があればいいなと思います。
- ・林を伐採してソーラーパネルを設置するという事例が散見されます。このような本末転倒な取り組みに対しては規制を強化すべき。

### (3) まとめ

---

#### ①地球温暖化対策に関する意識について

- ・地球温暖化問題に関心を持っている層は回答者の5割強であるが、「脱炭素社会」という言葉を聞いたことがある割合が8割に達しており、認知が進んでいる。
- ・気候変動への適応については、言葉そのものの認知は「脱炭素社会」ほど高くはないものの、6割以上の回答者が自然災害の増加や、これに伴うライフラインへの被害についての問題意識を有していた。
- ・これらのことから、気候変動が身近な問題であると感じていること、脱炭素社会に向けた取組が必要とされていることについては、一定の認知が広まりつつあると考えられる。

#### ②再生可能エネルギー・省エネルギーに関する設備設置の状況等について

- ・再生可能エネルギー・省エネルギーに関する設備については、平成26年度に実施された同種のアンケート調査（以下「前回調査」という。）と比較して、設置・導入が進んでいる。
- ・住居形態別に見ると、全体的な傾向として借家に比べて持ち家の方が、設備の設置・導入されている割合が高い。また、持ち家において、設置・導入が進んでいる設備は、以下のとおりであった。
  - ＜設置・導入が進んでいる設備（20%を超えるもの）＞
  - 戸建住宅（持ち家）：高効率照明、高効率給湯器、二重窓または断熱サッシ
  - 集合住宅（持ち家）：高効率照明、二重窓または断熱サッシ
- ・「次世代自動車」、「省エネルギー性能が高い家電」、「蓄電池」は、1割以上の方が「設置・導入予定又は検討中」としており、今後導入が見込まれる。
- ・家電製品の買替時において重視されるのは、価格、性能（省エネルギー性能以外）、使いやすさ、省エネルギー性能、メーカーの順の傾向があるため、「省エネルギー性能の高い家電製品は、イニシャルコストが高くても、ランニングコストが低い」といった、費用面（価格）の情報があるとよいと考えられる。
- ・一方、太陽光発電設備については、上記に挙げた設備ほど導入が進んでいないが、県民は一定の関心を持っていると思われることから、災害時の電源確保、「次世代自動車」、「蓄電池」との組み合わせによる効果に対する理解を醸成していくことで、今後更なる導入が見込まれると考えられる。

#### ③新型コロナウイルス感染症流行前と比べたライフスタイルの変化について

- ・「自宅で料理すること」、「通信販売の利用」、「テレワークまたはオンライン授業」が増え、「ショッピング、外食、レクリエーションを目的とした外出」が減少している傾向が見られ、県民の在宅時間が増えているとみられる。
- ・電気使用量については、「あまり変わらない」と回答した割合が高い（56.4%）。しかし、回答者の28.6%が「増えた」と認識しており、「減った」との認識は4.4%にとどまっていることから、家庭における電気使用量は、新型コロナウイルス感染症の発生以前の水準を維持しているか、やや増えている可能性があると考えられる。

#### ④県の取組、県への意見など

- ・今後重点的に進めていくべきと考える県の地球温暖化対策については、「太陽光発電設備や太陽熱利用システムなど再生可能エネルギー設備の普及促進」、「身近なみどりや森林の保全・整備の推進」、「歩いて暮らせるまちづくりなどエネルギー消費量の少ないまちづくりの推進」への関心が高い。
- ・地球温暖化問題に「とても関心がある」「ある程度関心がある」と回答した層は、「再生可能エネルギーや省エネルギーに対する意識や関心を高めるための取組の推進」や「太陽光発電設備や太陽熱利用システムなど再生可能エネルギー設備の普及促進」を進めていくべきと回答した割合が高い。
- ・特に、「とても関心がある」と回答した層は、「身近なみどりや森林の保全・整備の推進」を選択した割合が高いことから、地球温暖化問題を意識している層は、再生可能エネルギーの利活用だけでなく、二酸化炭素の吸収源ともなり得る森林の保全・整備を進めていくことにも関心を持っている。
- ・一方で、地球温暖化問題に「関心がない」「あまり関心がない」と回答した層は、県が重点的に進めていくべき取組について「わからない・特にない」と回答した割合が高い。
- ・また、20代、30代の回答者の地球温暖化対策問題への関心は、40代以上と比較して低く、県が重点的に進めていくべき取組について「わからない・特にない」と回答した割合も若い世代ほど高い。これらのことから、地球温暖化問題を自分ごととして捉えてもらえるよう、若年層を中心に関心喚起につながる普及・啓発に努めていく必要がある。